

# 松山市立子規記念博物館 1 2 回展

## 『石丸繁子書道展』 作品目録

会 期 : 平成30年11月18日(日)～11月24日(土)  
タイトル : 『子規の生』  
サブタイトル : 『子規 最後の二年 明治34年、35年の俳句と短歌』  
コンセプト : 今展は、子規の明治34年、35年の俳句と短歌を作品にしました。

子規は、「痛いことも痛いがか・・・泣くかわめくか・・・」と叫びながら、自己の病床のありようを客観的に捉えた句や歌を数多く残しました。又、随筆「墨汁一滴」「仰臥漫録」「病牀六尺」の執筆は、激烈な苦痛の日々の中で、唯一生きる喜びとなりました。この最後の二年は、死を目前にし「希望」「楽」「自由」が奪い去られ「羸<sup>羸</sup>」の時期に近づいていたのです。それにも拘わらず子規の「生」への執着は、「写生」の内容をさらに深め、質的に高い成果を収めました。作品制作の過程において、子規は強靱な精神力を示唆し、私を鼓舞し続けながらエキサイトさせてくれました。

### 随筆『墨汁一滴』 俳句 (明治34年1月16日～7月2日)

筆禿びて返り咲くべき花もなし	季語「帰り花」	季節「冬」	明治34年	1月24日
年玉を並べて置くや枕もと	季語「年玉」	季節「新年」	明治34年	1月28日
ガラス玉に金魚を十ばかり入れて机の上に置いてある。余は痛をこらへながら病床からつくづくと見て居る。痛い事も痛い綺麗な事も綺麗なぢや。			明治34年	4月15日
三年目に蕾たのもし牡丹の芽	季語「牡丹」	季節「夏」	明治34年	4月16日
春深く腐りし蜜柑好みけり	季語「春深し」	季節「春」	明治34年	4月16日
山吹や何がさはって散りはじめ	季語「山吹」	季節「春」	明治34年	4月25日

### 随筆『仰臥漫録』 俳句 (明治34年9月2日～10月29日)

雨ノ日ヤ皆倒レタル女郎花	季語「女郎花」	季節「秋」	明治34年	9月2日
美女立テリ秋海棠ノ如キカナ	季語「秋海棠」	季節「秋」	明治34年	9月4日
病牀ノウメキニ和シテ秋ノ蟬	季語「秋の蟬」	季節「秋」	明治34年	9月9日
ツクヅクト我影見ルヤ虫ノ聲	季語「虫の声」	季節「秋」	明治34年	9月9日
草花ノ鉢並ベタル床屋カナ	季語「草の花」	季節「秋」	明治34年	9月12日
朝顔ヤ繪ニカクウチニ萎レケリ	季語「朝顔」	季節「秋」	明治34年	9月13日

### 随筆『病牀六尺』 俳句 (明治35年5月5日～9月17日)

筍に木の芽をあえて祝ひかな	季語「筍」	季節「夏」	明治35年	5月18日
五月雨や善き硯石借り得たり	季語「五月雨」	季節「夏」	明治35年	6月13日
芍薬は散りて硯の埃かな	季語「芍薬」	季節「夏」	明治35年	6月13日
風板引け鉢植の花散る程に	季語「風板」	季節「夏」	明治35年	7月19日

### 随筆『墨汁一滴』 短歌

あら玉の年のはじめの七草を籠に植ゑて來し病めるわがため	明治34年	1月17日
瓶にさす藤の花ぶさみじかければたたみの上にとどかざりけり	明治34年	4月28日
藤なみの花の紫繪にかかばこき紫にかくべかりけり	明治34年	4月28日
夕顔の棚つくらんと思へども秋待ちがてぬ我いのちかも	明治34年	5月4日

※ 表記は「子規全集」による